核兵器廃絶をめざす 富山医師・医学者の会 会報

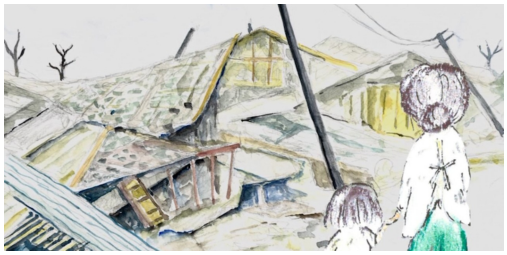
2018.7.5
核兵器廃絶をめざす
富山医師・医学者の会
富山市桜橋通り6-13
電話　076-442-8000

2018年夏 朗読劇と被爆者の講演のつどい

たみちゃんの8月6日

まっ青な空が広がる暑い朝でした。たみちゃんのお兄ちゃんやお姉ちゃんたちは工場や郵便局に働きに行きました。アメリカと戦争していた日本は、勤労奉仕といって女性も子供もお国のために働かなければなりませんでした…

「いったい、何が起こったんじゃ」二人がガレキの山をながめて途方にくれていると、下のお姉ちゃんが泣きながら帰って来ました。
みると背中が血で真っ赤にそまっています。「おかあちゃん、助けて」…



命からがらたどり着いたのは広いブドウ畑でした。髪が焼けこげ、やけどで顔がボールのようにふくれあがった女学生、体中にガラスがささってまるでハリネズミのような男性…

お話しする人

西本多美子さん

（金沢市在住）

広島市出身。４歳の時広島で被爆。自らの体験だけでなく、多くの被爆証言を受け継ぎながら石川県内にとどまらず国内外で講演や被爆証言を行うなど、被爆の実相を伝える活動を続ける。

とき　**8月11日（土・祝）**

午後１時30分～3時30分

・イラスト付朗読劇上映
・西本さんの講演
・被爆世代を引き継いで

会場　**タワー111**
3F スカイホール

参加費　無料

核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会

第15回 総会のお知らせ

日時　**8月11日**(土・祝)
午後３時30分～４時(つどい終了後)

会場　**タワー111　3F会議室**

主な内容

●２０１６～１８年度の活動報告、２０１８～１９年度の活動方針（案）等……２～４
●世話人会（案）、６／１２米朝会談で「非核化」を約束 ……5
●核兵器禁止条約　地方１１３議会「署名を」　政府に転換迫る ……6
●「米国のＮＰＲ（核体制の見直し）に抗議し、日本政府に働きかけを求める」……７

2016～2018年度の活動報告

2016年	７月	映画『父と暮せば』上映と被爆者の講演のつどい
	９月	北朝鮮核実験に抗議声明
2017年	４月	核兵器禁止条約欠席の日本政府に抗議声明
	６月	第42回世話人会
		共謀罪強行採決に抗議声明
		ニュース発行
	７月	※国連で核兵器禁止条約が採択される
	８月	アニメ『風が吹くとき』上映と被爆者の講演のつどい
	９月	ニュース発行
		北朝鮮核実験に抗議、政府に冷静な対応求める
	10月	第43回世話人会
	11月	反核医師のつどい（東京）に花崎世話人が参加
	12月	※ＩＣＡＮがノーベル平和賞を受賞
		９条改憲ＮＯ市民アクションとやまで金井代表あいさつ
		ニュース発行
2018年	２月	米核使用方針の拡大に抗議声明
	５月	第44回世話人会
	７月	ニュース発行

＜２０１６年＞

◆映画「父と暮せば」上映と被爆体験を聞く会

７月３１日、映画「父と暮せば」上映と被爆者の講演のつどいを開催し、会員および一般参加者１３０人が来場しました。

映画「父と暮せば」は、原爆投下後の広島を舞台に、生き残った負い目に苦しみながら生きる娘と、幽霊の姿で現れた父との心の交流を描いた人間ドラマで、原作は井上ひさし氏が書いたものです。

映画上映後、県被爆者協議会会長の田島正雄氏は、会員の高齢化と相次ぐ訃報で、被爆の実体験を若い世代に伝えることが次第に難しくなっている現状を訴えました。

今年、生々しい被爆体験をお話いただいたのは飯田國彦氏。３歳で爆心地から９００㍍地点で被爆、母と姉は相次いで亡くなり、氏自身も無数のガラス片が突き刺さった傷が化膿、栄養失調でその傷口が閉じるのに７年もかかりました。

飯田氏は２０年以上暮らした富山を離れ、故郷広島で残りの人生を被爆証言活動に力を注いでいます。

＜２０１７年＞

◆国連で核兵器禁止条約が採択 不参加の日本政府に対し抗議声明

７月７日、核兵器の使用や保有などを法的に禁ずる核兵器禁止条約が、国連本部の条約交渉会議で採択されました。「ヒバクシャにもたらされた苦痛」との一節を前文に入れ、人道的見地から核兵器の存在を否定する条約が誕生したのです。

しかし日本政府は、唯一の被爆国でありながらこの会議に参加しませんでした。

当会は採択会議に先立って、日本政府に対し条約交渉会議に参加し、唯一の被爆国である日本が核兵器の禁止と完全廃絶に向けて積極的な役割を果たすことを強く求める声明を出しました。

◆アニメ「風が吹くとき」上映と被爆体験を聞く会

８月１１日、アニメ映画「風が吹くとき」上映と被爆者の講演のつどいを開催し、会員および一般参加者８０名が参加しました。

映画は冷戦下のイギリス片田舎。老夫婦は戦争が勃発したことを知り、政府のパンフレットに従い、保存食を用意したり

シェルターを作るなどの準備を始めます。そして突然ラジオから３分後に核ミサイルが飛来すると流れます。シェルターに逃げ込んだ夫婦は爆発の被害からは辛うじて免れましたが、放射線に蝕まれ日に日に弱ってゆきます。互いに励まし合いながら政府の救出を信じて疑わない姿が哀れでした。

映画上映後、県被爆者協議会の田島正雄氏が広島での体験を話され、被爆二世・三世の会の会長に就任した小島貴雄氏が、今後の決意を述べました。

◆ＩＣＡＮ（核兵器廃絶国際キャンペーン）がノーベル平和賞を受賞 反核医師のつどいに花崎世話人が参加

２０１７年のノーベル平和賞はＩＣＡＮ（核兵器廃絶国際キャンペーン）が受賞しました。日本からの参加団体の中に反核医師の会があります。ＩＰＰＮＷ（核戦争防止医師会議）も１９８５年に受賞しています。

今回は７月の核兵器禁止条約成立に大きな役割を果たした世界の市民社会の象徴としてＩＣＡＮが受賞したものです。

１１月４～５日、東京で開催された第２８回反核医師のつどいに花崎世話人が参加し、ＩＣＡＮの受賞はゴールではなく禁止条約の実効に向けて新たな活動の始まりであるとの議論が交わされました。

◆９条改憲ＮＯ市民アクションとやまで金井代表があいさつ

１２月１０日、『安倍９条改憲ＮＯ！市民アクションとやま』が主催する集会が富山市・サンフォルテで開かれ、当会の金井英子世話人代表が発言しました。

反核医師の会代表として、命を守る医師の立場から核兵器と戦争は絶対反対であり、どうかカを合わせて９条を守ろうではありませんか！と述べました。

＜２０１８年＞

◆声明「米国の核戦力増強の方針転換に抗議し、日本政府に核廃絶の働きかけを求める」

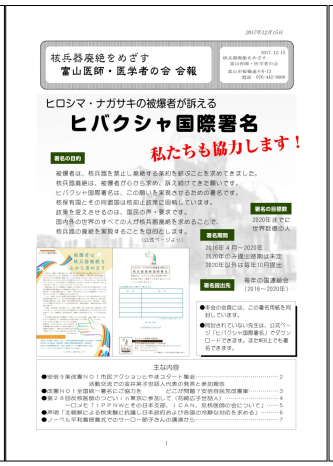
２月２日、米トランプ政権は「核体制の見直し（ＮＰＲ）」で、使用を前提とした小型核兵器の開発・配備を進め、通常兵器に対する報復にも核の使用を辞さないと表明したことに当会として抗議しました。

また米国の方針転換を評価するとした日本政府に対しても、アメリカと歩調を合わせるのではなく、被爆国として核兵器全面禁止を提唱し、核を持つ国々に対し核軍縮を働きかける役割を求めました。

今期発行の会報

2017. 6. 15号

2017. 9. 5号



2017. 12. 15号

2018. 7. 5号

2018年7月5日

2018～2019年度の活動方針（案）

（１）核兵器廃絶への世論形成に努める事業

・核兵器禁止条約の実行を求め、核廃絶への世論形成に役立つ可能な限りの活動を行う。

（２）原発事故による健康被害を防止し、エネルギー政策の転換を求める活動

・福島第一原発事故の真相究明と、健康被害をなくすための活動を行う。

・既存の原発のすみやかな廃炉をめざし、原発に依存しないエネルギー政策への転換を求めていく。

（３）憲法を守り、平和を希求する活動

・安倍政権による改憲に反対し、日本国憲法第九条を守る活動を積極的に行う。

（４）県内外の非核・平和団体との協力、共同の取り組み

・県内の非核、平和団体と積極的に協力していく。

・「核戦争防止、核兵器廃絶を求める医師、医学者のつどい」に参加する。

（５）組織の充実、発展をめざす

・会報の定期発行と会員増加を図る。

決算報告・予算（案）

２０１４年度および２０１５年度会計報告

自:2014年 7月 1日
至:2016年 6月30日

決 算

収入の部

年会費	¥	205,000
雑収入	¥	4,004
前年度繰越金	¥	184,894
合計	¥	393,898

支出の部

会議費	¥	18,475
事業費	¥	169,720
事務費	¥	4,882
協賛金	¥	－
雑費	¥	－
小計	¥	193,077
翌年度繰越金	¥	200,821
合計	¥	393,898

２０１６年度および２０１７年度予算（案）

自:2016年 7月 1日
至:2018年 6月30日

予 算（案）

収入の部

年会費	¥	400,000
雑収入	¥	10,000
前年度繰越金	¥	200,821
合計	¥	610,821

支出の部

会議費	¥	20,000
事業費	¥	350,000
事務費	¥	10,000
協賛金	¥	－
雑費	¥	－
小計	¥	380,000
翌年度繰越金	¥	230,821
合計	¥	610,821

核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会世話人会(案)

■世話人代表

金井　英子　　(砺波市・金井医院・小児科)

■世話人副代表

小熊　清史　　(魚津市・小熊歯科医院・歯科)
小栗　絢子　　(高岡市・小栗小児科医院・小児科)

■世話人

太田　真治　　(高岡市・おおたファミリー歯科・歯科)
川瀬　紀夫　　(入善町・川瀬医院・内科)
高田　良子　　(富山市・高田医院・内科)
塚田　邦夫　　(高岡市・高岡駅南クリニック・外科)
寺西　高子　　(富山市・老人保健施設レインボー・小児科)
花崎　広子　　(射水市・真生会デンタルクリニック・歯科)
山下　泉　　(砺波市・桐沢医院・眼科)
山本　美和　　(富山市・富山協立病院・内科)
吉田　耕司郎　　(高岡市・吉田内科小児科・内科)
吉田　徹　　(富山市・二杉歯科医院・歯科)
与島　明美　　(富山市・富山協立病院・内科)

6/12米朝会談で「非核化」を約束（正恩氏）

６月１２日、トランプ米大統領と金正恩朝鮮労働党委員長による首脳会談がシンガポールのホテルで行われ、両氏は共同声明に署名しました。その中でトランプ氏は北朝鮮に「体制保証」を与えること、正恩氏は朝鮮半島の「完全な非核化」を約束することを確認しました。しかし、いつまでにどうやって非核化を実現するのか具体策にはふれず、引き続き協議を続けることとしています。

この会談については、「トランプ氏が中間選挙を意識して内容のハードルを下げた」、「北朝鮮は過去に何度も約束を破ったので信用できない」「当面の戦争は回避でき、首脳同士が約束したのは今回が初めて」などさまざまな評価があります。

世話人会は、米朝両国の「口約束」の具体化を進めるうえで、日本政府が積極的な役割を果たすよう求めます。

2018. 6. 14　朝日新聞

注目の記事から

核禁止条約　地方113議会「署名を」政府に転換迫る

2018. 1. 22　東京新聞

核兵器を全面的に違法化する核兵器禁止条約が国連で採択された昨年七月以降、日本政府に条約への署名や批准を求める意見書が少なくとも百十三の地方議会で可決され衆参両院に提出・受理されたことが、両院事務局と地方議会への取材で分かった。大半が安倍晋三首相にも宛てられている。

◆日本政府は反対

条約は非核保有国が主導し、昨年九月に各国の署名が始まったが、米ロなどの核保有国は反発。被爆国として核保有国と非保有国の「橋渡し役」を自任する日本政府は「条約が亀裂を深める」と反対しているが、方針を転換し条約推進の先頭に立つよう迫った形だ。

署名を求めたのは岩手県議会のほか、市町村議会では被爆地の広島、長崎両市を含む二十三都道府県の百十二議会。うち十六議会は署名までの間はオブザーバーとして参加するよう要求した。いずれも条約が採択された昨年七月七日以降に可決され、衆参両院事務局が受理したものを、共同通信が内容別に分類した。

これとは別に、全国市議会議長会のまとめや広島、長崎の被爆者団体によると、少なくとも十六議会が国会ではなく安倍首相に提出。可決しても提出していない議会や、提出後に受理の手続きが終わっていないものもあるとみられ、今後増える可能性がある。

岩手県議会は、条約は「国際人道法に照らしてその違法性を明確に述べている」と指摘。神奈川県南足柄市議会は、条約に貢献した非政府組織（ＮＧＯ）「核兵器廃絶国際キャンペーン」（ＩＣＡＮ（アイキャン））が昨年、ノーベル平和賞を受賞したことを「条約こそが人類を救う本流であることの国際的な証しだ」と強調した。

政府は、条約への反対理由に北朝鮮情勢の緊迫化も挙げているが、長崎市議会は「安全保障上、核兵器が必要だと言い続ける限り核の脅威はなくならない」と指摘。米国の「核の傘」に依存する政府に対し、宮城県美里町議会は「条約に背を向けず、条約の立場に立って粘り強く核保有国を説得すべきだ」と訴えた。

一方で三重県菰野（こもの）町議会は、核廃絶には「核兵器の拡散防止を徹底し削減を着実に進めることが、現実的には最も重要」と言及。その上で、被爆国の責任として署名を求め、広島市議会も核廃絶のためのリーダーシップを取るよう迫った。

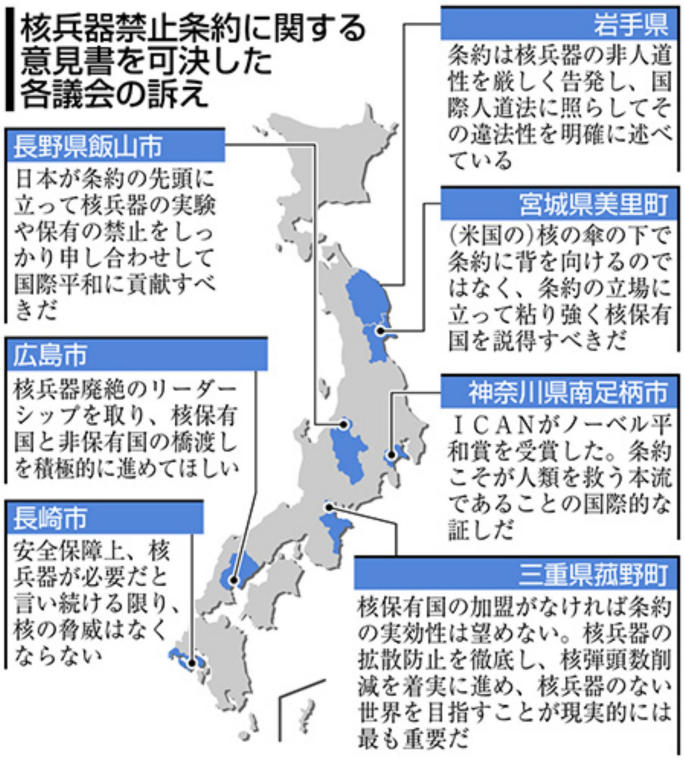
このほか、日本政府に署名までは要求しないが、各国が条約に参加するため橋渡し役や積極的な役割を果たすことを求める意見書も八議会が可決し、国会に提出した。

◆可決へ被爆者が奔走

核兵器禁止条約への署名や批准などを日本政府に求める意見書を可決した地方議会が最も多かったのは岩手県だった。被爆者団体が中心になって議会に働き掛けた結果だ。県議会に加え、三十三市町村のうち二十四議会が可決しており、被爆者団体の担当者は「残りの人生を条約に懸ける被爆者の思いが伝わったのでは」と話す。

岩手県原爆被害者団体協議会（岩手県被団協）によると、活動を始めたのは条約が国連で採択された直後の昨年八月。県内全ての議会に意見書案を送り、要請があれば県内に住む被爆者らが出向き、条約の意義や県内被爆者の実態などを説明して回った。

下村次弘（つぎひろ）事務局長（７７）は「条約交渉に不参加の日本政府への危機感から、県被団協で独自に動いた」と説明。盛岡市など保守系議員も含め全会一致の議会もあった。父親が被爆者の下村さんは「動けば必ず結果は出る。他県でも積極的に地方から世論を高めてほしい」と期待。岩手の例を受け、広島の被爆者団体も同様の働き掛けを検討している。



当会世話人会、米の核体制の見直し（NPR)に声明

核体制の見直し（ＮＰＲ）とは、米国防総省が中心となり、今後５～１０年間の核戦略の方針や戦力の規模などをまとめた報告書のことです。

「使いやすい」核兵器はリスクを高める

オバマ前政権下のＮＰＲでは「核兵器に依存しない平和と安定」を明記しましたが、今回のトランプ政権は既存の戦術核兵器を、より精度の高い「使いやすい小型核兵器」に切り替え、先制使用も辞さないことを宣言したものです。

使うことへのハードルを下げれば、偶発的な核使用の危険が高まり、全面的な核戦争にエスカレートするリスクも高まるでしょう。核の惨禍もいとわないトランプ政権のＮＰＲは、核兵器禁止・廃絶を求める時代の流れに逆行するものです。

当会は、2月に米国政府に対し今回の指針の廃止を求める声明を発表しました。

声 明

米国の核戦力増強の方針転換に抗議し 日本政府に核廃絶の働きかけを求める

２月２日、米トランプ政権は８年ぶりとなる核戦略指針「核体制の見直し（ＮＰＲ）」を発表しました。新指針では、アジアや中東で核の脅威が強まっていることから、現実的な使用を見据えた小型核兵器の開発・配備を進め、通常兵器に対する報復にも核の使用を辞さないとしています。国連条約やＩＣＡＮをはじめ国際社会が目指す核廃絶の動きに真っ向から対立する米政権の暴挙はけっして許されません。

そもそも核配備を進めることで、相手国を萎縮させて抑止力を高めるという論法は破綻しています。これは北朝鮮がイラク・フセイン政権の「反省」から、米国に対抗できるよう核配備を進めてきた現状からも明らかです。さらにテロリズムの世界的な蔓延によって、核兵器の流出や誤射などの脅威が強まることも懸念されます。米国が取るべき方針は、率先して核軍縮を進めることで、世界の核軍縮の流れをリードすることです。

一方、今回の方針転換を評価するとした日本政府に対しても失望が広がっています。唯一の戦争被爆国である日本には、アメリカと歩調を合わせるのではなく、被爆国として核兵器全面禁止を提唱し、核を持つ国々に対し核軍縮を働きかける役割が求められます。

核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会は、あらゆる国の、いかなる形態における核実験をも全面的に禁止し、核兵器を緊急に廃絶することを求めてきました。私たちは人々の健康と生命を守る医師・歯科医師の立場から、米政権に対しただちに今回の指針を廃止し、「核なき世界」を目指したオバマ前政権の方針を継続するよう強く求めます。

２０１８年２月５日　　核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会　世話人会
世話人代表　金井　英子

世話人・日々雑感

流されることなく 普遍的な自分の考えを持ちたい

世話人　　川瀬　紀夫（入善町）

会に参加してからは、以前より新聞の記事に目を通すようになったと自分では思います。このところ、北朝鮮の核問題、イラン核合意からの米国離脱といった、核に関する国際問題がメディアで大きく取り上げられています。北朝鮮の非核化に関しては、米朝会談のゆくえが大きな鍵となるようですが、厳しい駆け引きの中で、お互いの信頼性の問題もあり、とても一筋縄ではいかないように見えます。安倍政権はこれまで通り、トランプ政権に追従していくスタンスのようです。

核兵器禁止条約が昨年7月に国連で多数の国の支持で採択され、今後、批准される見通しです。これは歴史的な出来事だと思います。しかし日本は被爆国であるにもかかわらず、これを支持していません。残念なことですが、米国の核の傘の下で平和を維持してきたことも大きな理由であり、米国追従が第一なのでしょう。一方、憲法9条のおかげで、戦後、さらなる戦争に参加せずにこられたことも事実です。私は国民の一人として、時の政権の考えに流されることなく、普遍的な自分の考えを持ちたいと思います。核兵器に反対し、戦争に反対し、意見を共有できる仲間との活動に参加し、また歴史から学ぶことをこれからも続けたいと思います。（2018.5.31記）

医者人生の最後をレインボーで

世話人　　寺西　高子（富山市）

私は平成26年4月から老人保健施設レインボーに勤めております。

レインボーは私の住んでいる水橋の三郷校下にあり、医者人生の最後を近くで楽しく過ごそうと思ってやってきました。建物は白岩川のリバーサイドにあり、田んぼに水が入るとキラキラしてきれいです。田植えが終わり、早苗が育つにつれ、緑が拡がっていきます。秋になると黄金色になり雪が積もると銀世界です。毎日、田んぼの中の道を、季節を感じながら車を走らせて出勤しています。

食堂の一面がガラス張りで、そこから立山連峰が一望できます。大伴家持は立山を絶賛していたようですね。

立山にふりおける雪を常夏に
見れども飽かず神からならし

そんな立山を日々堪能しています。入所の方とも「暑いのに山にまだ雪があるね～」「山もだいぶん白くなってきたね、もうすぐ冬がくるね～」とか話しています。

そんな中で仕事ができることにささやかな幸せを感じています。新幹線もすぐそばを走っています。開設当時は新幹線が通るたびに、皆で手を振ったりしていましたっけ。

しかし介護をめぐる環境が厳しくなり、経営が大変になってきています。職員の確保が困難になってきており、人員が増えないので、職員にも疲れが目立ってきています。今年はレインボー開設25周年になりますが、建物もいろいろガタがきて、随分みすぼらしくなりました。

それでもレインボーは地域の皆様はじめ多くの方たちに物心ともに支援していただいてできた施設です。たくさんのご寄付もいただきました。回りの地主さんたちに土地もわけていただきました。多くの方たちの熱い想いがこめられてできたレインボーです。それをちゃんと受けとってやっていかなければと思っています。そして、ささやかな幸せをいっぱい発明、発見して元気にならなくっちゃと思っています。

編集後記

●核兵器禁止条約の採択、初の米朝首脳会談で「朝鮮半島の非核化」。核兵器廃絶をめぐって世界は大きく動いている。

●条約は核保有国の善意を待っていても埒があかないと、非保有国がしびれを切らした形だ。金正恩はトランプとのチキンレースで、周到に準備して大胆な勝負に出た。

●それらの評価は国によって、また個人の政治的立場で大きく異なる。その実現には多くのハードルをクリアしなければならない。

●しかし国連や首脳会談の場で、究極の理想が現実の目標として文字で刻まれたことは、未来への大きな足がかりとなる。（S・M）